

窪田空穂 歌人、国文学者。<大正デモクラシー>を代表する文人学者となり、多くの後進の指導に尽くした。

くぼたうつぼ

西南戦争・1877 = 長野県和田村(松本市)で次男に生れる。

明治14年政変1881 = 4歳 :

帝国大学始・1886 = 9歳 :

帝国憲法発布1889 = 12歳 :

日清戦争始・1894 = 17歳 :

日清戦争終・1895 = 18歳 :

松本中学を経て、

早稲田大学文科を卒業し、新聞や雑誌の記者となる一方、

ビア/国産化・1900 = 23歳 :_{文庫}に投稿して、与謝野鉄幹に歌の選を受け、{明星}創刊に当たって客員待遇を受けるも、

田中正造直訴1901 = 24歳 : 離脱し、

教科書疑獄・1902 = 25歳 : 水野葉舟らと同人雑誌{山比古}を創刊して、短歌や小説を発表。

日露戦争始・1904 = 27歳 :

日露戦争終・1905 = 28歳 : 第1詩歌集「まひる野」を出版。{電報新聞}の記者となり、短歌壇の選者もつとめる。

満鉄発足・1906 = 29歳 : 葉舟との合著「明暗」を刊行。記者をやめ、

新進作家として、田山花袋らと交わり、多くの自然主義的小説を発表。

大逆事件判決1911 = 34歳 : 小説集「炉辺」、

明治天皇没・1912 = 35歳 :

大正政変・1913 = 36歳 : 小品集「旅人」、

第一次大戦始1914 = 37歳 : 翻訳「小公女」を出版。_文芸雑誌{国民文学}を創刊して、作歌に戻る。

紀行・随筆も書いたが、

民本主義・1916 = 38歳 : *歌集「濁れる川」「鳥声集」、

本格政党内閣1918 = 40歳 : *「土を眺めて」を出版して、歌人としての才能を示すとともに、多くの後進を育成した。

大暴落・1920 = 43歳 : 母校早稲田大学に国文科が創設されて、講師に招かれ、

原敬首相暗殺1921 = 44歳 :

水平社結成・1922 = 45歳 :

やがて教授となり、国文学者としても多くの後進の指導に尽力しながら、

円本時代始・1926 = 49歳 : 歌誌{槻の木}創刊し、

満州事変・1931 = 54歳 :

日中戦争始・1937 = 60歳 :

大政翼賛会・1940 = 63歳 :

日米開戦・1941 = 64歳 : 芸術院会員。

敗戦・1945 = 68歳 :

極東裁判決・1948 = 71歳 : 早稲田大学を定年退職。

三大事件・1949 = 72歳 :

独立回復・1951 = 74歳 :

メーデー事件・1952 = 75歳 : *歌集「冬木原」に、シベリアに抑留され亡くなった次男を悼んで詠み、傑作として名高い史上最大の長歌「捕虜の死」などを遺し、

イスタラマ・1958 = 81歳 : *文化功労者となって、

大学紛争始・1965 = 88歳 : 「窪田空穂全集」刊行開始。

美濃部都知事1967 = 90歳 : 没した。

「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、